

令和元年度事業報告

晴見保育園

昭和 41(1966) 年 7 月 認可開設
昭和 60 (1985) 年 4 月 改築 (建替え)
平成 29(2017) 年 5 月 外壁塗装
定員 80 名

1 はじめに (全体的状況)

門脇園長が今年度 6 月末で退職 (在職期間 8 年 2 月) し、翌 7 月から 鶴矢園長による新体制での運営が始まった。

(1) 基本方針については、保育・地域支援・職員指導体制・予算の執行等概ね良好に展開出来た。

(2) 保健衛生に関しては、毎年流行するインフルエンザは、園児 1 名のみの罹患で終息。

今年度 3 月に初めてヒトメタニューモ感染症に 6 名が罹患した。熱・鼻水・咳症状が強く、食欲も低下し、1 週間近く休む状況が発生したが、全体として罹患者の症状は、比較的軽かった。合計 7 名 (翌月に 1 名) で終息した。

(3) 4 月入園した新入園児 1 名 (4 歳児女児) が 6 月末で退園する事案が発生した。

その内容としては、保護者から保育園内の安全及び保育内容についての不安・不満の申入れがあった。府中市からも事実関係の聞き取り調査が実施され、指摘を受けた箇所は修繕を行い、担任保育士とは、保育についての確認、振り返りを行った。

(4) 天候不良により計画していた秋の遠足はすべて中止になった。

特に、高尾山遠足は、台風の影響でがけ崩れ等の情報があったため、早急に代替案 (高尾トリックアート美術館及び 599 ミュージアム見学) を計画するが、天候不良のためこちらも中止になった。

(5) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事の中止・変更等の対応を行った。特に、卒園式は縮小実施し (卒園児・保護者・職員のみ参加)、お別れ会の幼児 3 クラス会食は中止とした。

2 重点目標の評価

(1) 保育内容に充実を図る⇒○

ア 朝の体操・歌の取り組みをしていく中で、体を動かすことへの喜びや身体の柔軟性等が育成された。

保育士のピアノ伴奏による音楽指導技術の向上や更なる楽器指導への取り組み等、保育内容の向上が見られた。

イ 地域の教育機関との連携による保育の展開が出来た。

特に、農工大協力の下、馬車体験を新たに取り入れ、動物との触れ合い体験は、園児・保護者から好評を得た。次年度も引き続き実施したい。

(2) 地域子育て家庭支援の充実と定着⇒△

ア 一時預かり保育の利用者数は、今年度3月末現在2,017名であり、前年度同月2,116名利用より、99名の減少となった。

減少した理由としては、一時預かり保育を長年担当してきたベテラン保育士が前年度3月末で退職し、新人保育士を含めた3名の職員で保育を行ったため受入児童数を抑えたことによるものである。

また、一時預かり保育の受入れ児童の中で、発達障害を疑われる児童が多く見受けられるようになり、一時預かり全体の児童の受け入れを抑えて、落ち着いた保育を心掛けたこともあげられる。

イ 育児講座・出産を迎える体験等の実施により、初めて育児に取り組む地域の子育て家庭から好評を得た。

(3) 事務の省力化⇒○△

ア 日常業務中に保育士が交替で事務作業を行える日を設け、居残り時間等が減少するようになった。

保育用記録ソフト（日誌等）の導入を行い、保育士の事務の省力化につながっている。しかしながら、乳児等の複数担任クラスにおいては、「クラス保育内容日誌」と「園児個別記録」等が同時に入力出来ず作業が進まないことがある。

同記録システムの操作性の問題があるため、引続きソフト会社へ改善を求めて行く。

(4) 保育環境の計画的な整備⇒○△

ア 保育室内の家具・備品の転倒防止の再確認を行った。併せて、事故防止の観点から、園児・保育士が注意場所の把握がし易いように、JIS注意喚起マークの貼付を行った。

イ 園庭西側に隣接する民家との万年塀の補修工事が完了。

3 その他

(1) 幼児保育無償化に伴う幼児の副食費の徴収

幼児（3～5歳児クラス）の保育無償化に伴い、府中市の要請により幼児の副食費徴収は各保育園で行うこととなった。

当園では、家庭毎にゆうちょ銀行口座を開設いただき、当月末に引落とし（引落とし出来なかった場合は翌月10日引落とし）を行うこととした。

数家族において、残金不足で引落としが出来ないことが散見されるが、振込用紙で入金していただき、順調に徴収出来ている。特に保護者からのクレーム等は発生していない。

(2) 撮影協力した映画「くらやみ祭りの小川さん」が10月25日から東宝シネマにて上映された。当園にて撮影されたシーンは、カットされることなくすべて映画の中に収められていた。